

令和6年9月28日

南の風 519

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の続きです

相手も成長するし自分も成長すること、成功を皆で共有するために、自分も成功する、みんなも成功する、そのための方法をみんな考え続ける、そういったチームワークを築き上げる必要があるのです。

次に、「勇気と思いやりのバランス」についてです

スポーツ選手にとって勝ち負けの思想に陥らないで、お互いが相乗効果的なチームワークを作り出すというのは簡単なことではありません。

試合で活躍するような選手は、特に強い「勇気」を持っているものです。俺が決めてやる、俺に任せろ、という頼もしいメンタリティーの選手が試合で活躍します。そしてその勇気の強さが勝ち負け思想を強化することになるからです。

自分の成功だけでなく、相手の成功を考えるには「思いやり」が必要です。勝ち負け思想ではなく、相乗効果的なチームワークを築き上げるために必要なのは、「勇気」と「思いやり」のバランスなのです。

勇気はないが、思いやりに満ちているというのも相乗効果的なチームワークを作るうえでは問題です。人間関係のうえでは摩擦も起こらず、相手のことを考えた行動や言動を選ぶので非常に「良い人」ではありますが、高いパフォーマンスを発揮する組織を目指すうえでは、自分がへりくだった人の良さでは不十分なのです。自分も成果を挙げ、チームメイトも成果を挙げるように影響しあっていかなければなりません。単に摩擦がない関係と、相乗効果的な関係は全く別物なのです。

勇気と思いやりのバランスを高い次元で成熟させることが、相乗効果的なチームワークの一員になるために必要です。

重要なことは、高い次元でということです。勇気があって、思いやりに欠ける人は、思いやりの心をもっと強くすることです。勇気の量を減らしてバランスを取るのでは、相乗効果的な影響のしあも小さな力学になってしまいます。

チームメイトに文句を言ったり、試合でも強気に自分ばかりが攻めてしまうような選手がいたら、つついっそういう選手の行動を責めてしまいがちです。そうではなく、その勇気とバランスが取れるくらいのレベルでチームメイトのことを考えられる、相手を思いやれる気持ちを持たせることが重要なのです。これは逆もしかりです。多くの場合、日本の子どもたちは思いやりはあっても、勇気が足りない傾向にあります。そのような文化の中で育ってきているからです。そんな子どもたちに、勇気を持つことを教えなければなりません。

鈴木氏が指摘する「勇気」は、ミニバス選手を預かる我々指導者にとってもチームや選手の成長に大きな要素となります。特に試合で、「あの子なら攻められるのに」というときでもパスを選択してしまう場面を見るにつけ、失敗を恐れない「勇気」の大切さが頭をよぎります。 次号にします。